

では、生ごみの減量や資源物の分別のポイントとは、どうでしょう。



生ごみ減量のポイント

生ごみは、もやせるごみの約半分をしめています。生ごみを出す前にひと手間かけることで、大幅に減らすことができますので、みなさんも次のことを実践して、生ごみを減らしましょう。

①生ごみの水切り

「生ごみ」と言われるものは、野菜の切れ端など水分を多く含んでいます。その量は、何と、生ごみの約70～80%にもなります。

三角コーナーや水切りネットなどを活用し、ぎゅっと絞ってから出すように心がけましょう。

②エコ・クッキング

生ごみは料理をすることで出してしまうため、生活のついで避けて通る事はできませんが、食べきれぬ量だけ料理し、食べ残しを減らすことにより、出す量を減らすことができます。



資源物の分別のポイント

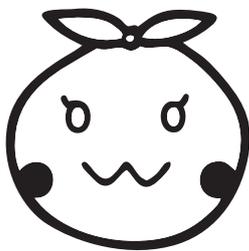
生ごみの次に多いのが、資源化できるものの分別です。

グラフ(図1)にあるとおり、もやせるごみの中で資源化できる容器包装プラスチックが8%、紙類が11%含まれていますので、きちんと分別することで約20%の減量となります。

①容器包装プラスチックは、中身を使い切り、水で軽く洗ってから出してください。汚れの落ちないものは、もやせるごみに出してください。

②紙類は、汚れたもの、においのひどいもの、生ごみにふれたもの、ぬれたものなどは資源化することはできませんが、包装紙やチラシなど多くのものは資源化できるので、市や町の紙類回収日に出すようにしましょう。

ごみを減らすことで、みなさんの負担も減らすことができます。ご協力をお願いいたします。



◇ご注意ください◇

有料化に伴い「もやせるごみ」と「もやせないごみ」は共通指定ごみ袋で出していますが、入れるときは一緒にせず、「もやせるごみ」はもやせるごみだけ、「もやせないごみ」はもやせないごみだけと別々に袋に入れ、それぞれの指定日に集積所に出してください。

資源ごみ袋については、袋の形を変更しましたが、出し方についてはこれまでと同じです。

なお、衛生センターに直接お持ちいただく場合は、次のことにご注意ください。

- ・重量に応じてごみ処理手数料をいただいておりますので、指定ごみ袋は使用しないでください。
- ・袋を用いる場合は、中身が判別できるように、透明または半透明の袋をご使用ください。

